



教育委員会より

「多久から発信！SDGs」

We♡多久♡ふるさとの魅力♡

私たち東部校の7年生は、総合的な学習の時間に「多久学」に取り組んでいます。「多久学」とは、ふるさと多久について、さまざまなテーマから調べてまとめ、それを発信する学習活動です。

多久茂文、草場佩川、高取伊好、志田林三郎といった多久を築き、発展させてきた人たちの存在は大きいです。納所、ヒワや女山大根、桐岡なす、多久まんじゅうなどの特産物もあります。さらに、鬼の鼻山や西溪公園といった豊かな自然を生かした観光名所や、釈菜や多久まつり、論語カルタ大会など歴史と伝統ある行事も多く行われています。

書籍やパンフレット、インターネットで調べていく中で、多久には魅力的なものがたくさんあることに改めて気づきました。また、多久に住んでいる私たちでさえ知らないこともまだまだあり、ふるさと多久をとて誇らしく感じました。こんなにすてきな多久を県内外の人に、もっと知ってもらいたいという気持ちも深まりました。

こんなに魅力あふれる多久ですが、近年は人口減少が大きな課題になっています。私たちが、ふるさとの魅力を大切に守り継いでいくことで、多久に住み続ける人やこれから多久にやってくる人が増え、多久がますます元気になっていくのではないのでしょうか。ずっとずっとふるさとを大切にしていきたいです。



東原庁舎東部校 7年1組一同

連載

多久市の指定文化財(8)

「両子神社の肥前鳥居」

東多久町大字納所二七四六番地(両子神社)

東多久町大字納所平林区に所在する両子神社は、明治43年(1910)に両子山王権現社と湯峯山熊野権現社が合併された神社です。多久領の地誌「丹郎邑誌」によると、

両子山王権現社は長徳元年(995)に秋田納所次郎豊次と豊忠が両子山雄岳山頂に創建し、のち現在地に移され、湯峯山熊野権現は秋田宮内大輔豊定が創建、現大畑区から移転合祀したと伝えます。

秋田豊定は天徳元年(951)に公田管理の勅命があり当地に赴任した代官で、年貢を納める地の意味から納所氏に改

(教育振興課)



▶肥前鳥居(一の鳥居)



▶肥前鳥居(二の鳥居)

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

- ◆ 帰省子が 居間のエアコン 買い換えて 初の孝行 炎暑に果たす 尾形 節子
- ◆ 広辞苑 両手に持ちしが 取り落す 吾の齢を 川浪 信子
- ◆ 私には 過去も未来も ありません 確かな今を 生きているから 野崎 隆幸
- ◆ 好きだった 鯛の刺身に 酒少し 月命日に 夫がほほえむ 梶原恵美子
- ◆ 農継ぐと 進学諦め 五十余年 病得て農を 止めるおとうと 浦野 嘉恵

俳句 《大石ひろ女選》

- ◆ 人生の余白 染しむ 敬老日 富樫 明美
- ◆ 長き夜の 秒針の音 更けてゆく 武富 律子
- ◆ 彼の手が しづかに肩へ 秋の風 三塩不二子
- ◆ 逝く人を 惜しむ朝の 秋の雨 本村 則子
- ◆ 地下鉄に 乗り継ぐ 路線 赤とんぼ 大石ひろ女

川柳 《多久川柳会 互選》

- ◆ ふるさとの 安らぎが待つ 旅帰り 西山 残月
- ◆ 美肌の湯 ツルツルサラリ 頬赤く 田代えみこ
- ◆ 旅が好き 十景十色 匂う宿 小副川ヨシエ
- ◆ ひよいと 亡母 現れそなた 右隣 大谷 和
- ◆ 午前様 妻の笑顔が 恐くなる 田代まつこ